特集

みんなでつくろう！安全なまち

北本市がめざす「セーフコミュニティ」

「セーフコミュニティ」は、「けがや事故は偶然の結果ではなく、予防できる」という考えのもとに、地域が協力して安心・安全なまちをめざす活動です。1970年代にスウェーデンで始まり、現在はWHO（世界保健機関）が推進する安心・安全のまちづくりの仕組みに発展しています。

今回は、市で行われているセーフコミュニティ活動についてご紹介します！

協働推進課
セーフコミュニティ担当
長島 俊介

もっと安心・安全なまちに

人と人とのつながりから

「おはよう！」毎朝、学校へ向かう子どもたちをやさしい声が見守ります。あいさつは、温かい人間関係を育むだけではなく、人と社会とのつながりを強め、犯罪などを抑える効果があると言われています。

私たちが普段何気なく暮らすまちを見渡すと、さまざまな人の身近な活動によって支えられていることに気づきます。見守ることや声をかけること、人と人とのつながりからセーフコミュニティ活動は始まります。

北本市で取り組む理由（わけ）

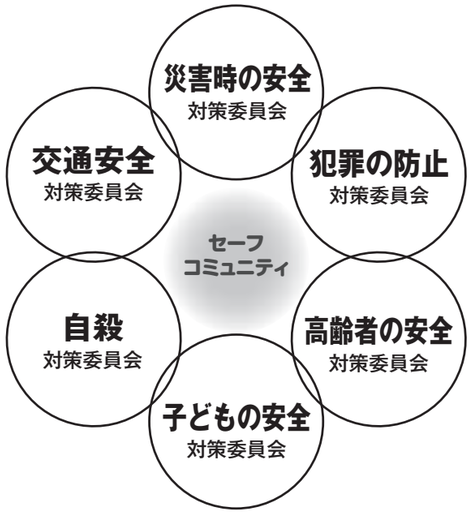
皆さんは、自分たちが住んでいるまちで、どのようなけがや事故が起こっているか知っていますか？

平成18年から平成22年に、市内で病気以外のけがや事故などが原因で亡くなった人は、147人です。驚くべきことに、その半数以上が「自殺」で亡くなっています。次いで多いのが、「交通事故による死亡」です。交通事故の死傷者数を年代別で見ると、10代の子どもたちと、65歳以上の高齢者が突出して多くなっています。

「安心・安全に関する市民意識調査」によると、近年は犯罪の件数が減少しているにも関わらず、回答者の半数以上が「犯罪に巻き込まれること」への不安を感じていることが分かりました。また、自然災害に対しては、7割以上の人たちが不安を感じている結果となっています。

このような背景には、不安定な社会・経済情勢、少子高齢化の進展、高まる防災意識や地域コミュニティの希薄化などが考えられます。

6つの対策委員会



市では、セーフコミュニティを進めるにあたり、市内で起こっているけがや事故に関するデータを収集し、安心・安全の現状について「地域診断」を行いました。その結果、①交通安全、②災害時の安全、③犯罪の防止、④高齢者の安全、⑤自殺、⑥子どもの安全という6つを重点課題として掲げ、各分野に関係している民間団体や行政などで構成する「対策委員会」を設け、課題の解決に向けて取組みを進めています。

セーフコミュニティは、けがや事故などを科学的に検証し、そのうえで、明らかになった地域の課題を解決する取組みです。その際には、さまざまな団体が協働し、けがや事故などを予防する活動を進めることで、一人ひとりの自主的な行動へとつなげ、地域の絆がより強まることが期待されます。

北本市を「もっと安心・安全なまち」にするために、まずは、身近な活動から始めてみませんか？

数字で見るセーフコミュニティの効果

青森県 十和田市

青森県十和田市は、日本で2番目にセーフコミュニティに取組み始めました。十和田市は、交通事故発生件数が県ワースト1位であるという課題を抱えていましたが、セーフコミュニティ活動を始めたことで、平成20年には444件あった交通事故発生件数が、平成24年には301件にまで減少しています。

143件減
（交通事故発生件数）

スウェーデン ファルショッピング市

セーフコミュニティの取組みは、スウェーデンのファルショッピングという小さなまちで始まりました。住民・行政が協働し、けがの予防に関する情報提供や啓発などの活動を展開した結果、1978年から1981年の3年間で未就学児のけがが43%も減少するという効果をあげています。

43%減
（未就学児のけが）

「セーフコミュニティ」って、具体的にどんなことをしているのか知りたい！

セーフコミュニティは、これまでの地域活動をいかしながら「みんなが安心して暮らすためにはどうすべきか」を自分たちで考え、力を合わせて、その原因を取り除いていこうとするものです。そのためにも、市内で現在どのような安心・安全の活動が行われているかを知ることが大切です。皆さんの身近では、どのような活動が行われているでしょうか？

協働推進課 セーフコミュニティ担当 **秋葉 恵実**

「交通安全」のためにしていること

例えば 交通安全教室

交通安全教室は、効果的な啓発活動のひとつです。市内では、小学生を対象に行われるものや、親子で参加できるもの、女性や高齢者を対象としたものなど、さまざまな交通安全教室が行われています。その内容は、歩行者のための交通ルール指導から自転車運転免許講習、自動車の運転指導など、対象に応じてバラエティに富んでいます。

これらの啓発活動は、交通安全協会、交通安全母の会、老人クラブ連合会、鴻巣警察署、市くらし安全課、各学校などが実施し、それぞれが協力し合って開催しています。

女性と高齢者を対象にした自転車講習会

幼稚園で行われた交通安全教室

しかし、交通ルールの改正頻度が高いことや、このような教室に参加できない人たちに対し、どのように啓発を行うかなどが課題となっています。

交通安全対策委員会では、このような課題を解決するため、具体的な対策について議論を進めています。

交通安全対策委員会委員長 北本市交通指導員会 **横山 和代** さん

交通事故はとても身近な問題です。私は学校や老人会などの場で交通安全の啓発活動をしていますが、その場に来られない人にどう周知するかが課題となっています。交通安全対策委員会では、まずアンケートを実施し、市民の交通マナー意識を把握することから始めたいと思います。セーフコミュニティの取組みが広がっていけば、より多くの人に交通安全の重要性を感じてもらえると期待しています。他の自治体とも連携することで、埼玉県、そして日本全体が安心・安全に暮せると良いですね！

「子どもの安全」のために必要なこと

少子高齢化の進展、情報の高度化、犯罪の多様化など、子どもを取り巻く環境は、年々大きく変化しています。

こうした中、子どもの安全対策委員会では、①乳幼児の家庭内における事故予防、②中高生に多い交通事故予防、③年々クローズアップされている虐待の予防に課題を絞りました。

これらの課題を解決するため、子どもの健やかな育成の実現と、包括的に子どもの安心・安全が確保できるよう、関係する対策委員会と連携を進めています。

私は自治会の役員として地域の子どもの見守り活動に参加していました。現在は、民生委員・児童委員として虐待の研修に参加するなど、子どもの安全に関わっています。実際に児童への虐待と思われるケースに遭遇した時は、担任の先生と連絡を取るなどして事件には至らずに済みましたが、対応の難しさを痛感しました。セーフコミュニティは全庁的・全市的に進めていく取組みです。子どもの安全対策委員会では、他の対策委員会や地域の方々と協働しながら、子どもの安全を守る仕組みを作っていきたいと思っています。

子どもの安全対策委員会委員長 北本市民生委員・児童委員協議会 **清水 英男** さん

「犯罪の防止」のためにしていること

例えば 防犯パトロール

犯罪の大きな抑止力となるのが、地域の防犯パトロール活動です。市内では、防犯推進委員や自治会、PTA、青少年指導委員会など、さまざまな団体が防犯パトロールを行っています。しかし、実際に防犯パトロールを行っている人たちからは「このルートの巡回で良いのか」「どのような頻度で行えば良いのか」という声も出ています。犯罪の防止対策委員会は、各団体がそれぞれにパトロールを行っている現状から、みんなが協働してパトロールを行う体制を模索しています。

街頭での防犯啓発グッズの配布

犯罪は、起こった後は警察に多くを任せることになります。一方で、起こる前の段階では「被害者にならない」「加害者にならない」ための対策を地域で行うことが必要です。私たちは、北本で最も犯罪件数が多い自転車盗対策として、自転車盗が多い地域の人たちとの防犯パトロールと、最も自転車を利用する世代を対象にした防犯啓発という2つの視点から取組みを進めていこうと考えています。昨年12月には、実際に自転車盗が多い地域を回り、啓発活動を行いました。今後も地域と協働しながら、こうした活動を続けていきたいと思います。

犯罪の防止対策委員会委員長 北本市青少年指導委員会 **佐野 吉弘** さん

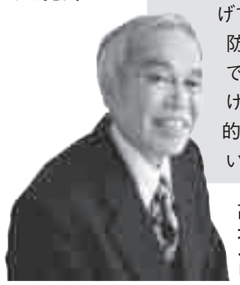
「高齢者の安全」のためにしていること

例えば 転倒予防体操

少子高齢化が進展し、北本市においても高齢者人口が増加しています。これに伴い、介護を必要とする高齢者も増えています。介護が必要になる原因はさまざまですが、そのひとつに転倒・転落によるものがあります。市内では高齢者の転倒を予防するため、多くの団体が、さまざまな工夫を織り交ぜ、オリジナリティあふれる転倒予防体操を実践しています。高齢者の安全対策委員会では、このような体操に参加したいと思っている高齢者の人へ、情報を適切に提供するための方法を議論しているところです。

体育センター主催のからだ元気教室

私はコミュニティ協議会の委員として、体育祭やコミュニティ祭の運営などに携っています。セーフコミュニティに参加し、今まで以上に地域に目を向けるようになりました。身近なけがや事故は、自分たちで防ごうとする気持ちが大切です。こうした意識を市民に広げていくために、私たちは転倒予防体操のような「いつでも・どこでも・だれでも」できるやり方で、けがや事故を防ぐ方法を効果的に発信していきたいと考えています。



高齢者の安全対策委員会委員長
北本市コミュニティ協議会
髙荷 正春 さん

「自殺予防」のために必要なこと

自殺対策委員会では、性別、年齢、原因・動機別の自殺に関するデータを分析してきました。その結果、ひとつの問題が自殺に直結するのではなく、健康問題、経済問題などさまざまな要因が絡み合って自殺にいたっていることが分かってきました。自殺にいたる経緯も個人によって異なり、個別のケースを全て把握するのは困難なのが現状です。市ではさまざまな問題に悩む人たちに対し、多様な相談窓口を設けていますが、窓口間の連携をより充実させる必要があります。身近な人たちが悩みを持つ人を支援し、温かく見守る体制を作ることが必要です。

自殺対策委員会委員長
JR北本駅駅長
金井 尊之 さん

JRとしては、人身事故対策のために踏み切りの照明を増やしたり、心を落ち着かせる青色LEDライトを駅に設置するなど、安心・安全を第一に取り組んできました。セーフコミュニティに関わり始めて、一人の市民として「自分の住むまちの安全はどうなのだろう」と考える意識が芽生えました。自殺対策委員会では、自殺にいたってしまった経緯を解明するとともに、今あるさまざまな相談窓口を連携させ、思い悩んでいる人がすぐに相談できる場を作りたいと考えています。

「災害時の安全」のためにしていること

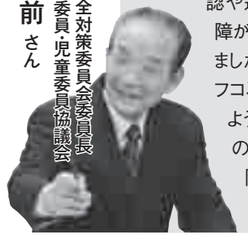
例えば 防災訓練

北本市の防災訓練

災害が起こった時、行政による「公助」以上に、自分で身を守る「自助」や隣近所で助け合う「共助」が大きな役割を果たします。防災訓練は、災害が発生した状況を想定し、一人ひとりが非常時に取るべき行動について考える重要な機会です。

市では、毎年8月に防災訓練を実施しています。昨年8月25日に開催された防災訓練では、広域避難所設営会場を2か所に増やして実施しました。また、自主防災組織と協働し、災害対応型の訓練を実施しました。災害時の安全対策委員会では、このような大規模な取組みのほか、より身近で気軽に行える取組みについて、議論しているところです。

私たち民生委員・児童委員は、阪神・淡路大震災以降「災害時一人も見逃さない運動」を続けています。災害時の安否確認や適切な支援体制のため、一人住まいの高齢者・障がい者などの災害時要援護者をリストアップしてきましたが、活用するシステムがありませんでした。セーフコミュニティに関わることで、それらがうまく機能するような仕組みづくりができればと思います。災害時の安全対策委員会では、より身近で参加しやすい防災訓練を提案し、担い手となる地域の人たちとの連携を進めていきたいと思います。



災害時の安全対策委員会委員長
北本市民生委員・児童委員協議会
加藤 素前 さん

セーフコミュニティには、国際認証制度があるんです。

セーフコミュニティには、WHO（世界保健機関）協働センターによる国際認証制度があります。

認証を取得するためには、セーフコミュニティ活動に着手することを宣言し、活動期間を経たうえで現地審査を行い、国際認証審査員によって「7つの基準（下左）を全て満たしている」と判定される必要があります。また、認証はゴールではなく、5年ごとに再認証の審査を受けることになります。

セーフコミュニティは、認証取得を目的に行うものではありませんが、これを取得することにより、北本市の安心・安全な取組みが国内外に評価されることになります。

平成26年11月には、現地審査を予定しています。これを機会に多くの市民の皆さんにセーフコミュニティを知っていただき、さまざまな安心・安全の取組みに積極的に関わっていただけるようお願いします。

認証取得に必要な７つの基準

1 分野を越えた協働を推進する組織の設置
2 全ての性別・年齢・環境・状況を対象とした長期的・継続的な予防活動の実施
3 ケガや事故を起こしやすい年齢層や地域などに焦点を当てた予防活動の実施
4 入手可能な『根拠』に基づいた予防活動の実施
5 ケガや事故の頻度と原因を継続的に記録する仕組みの構築
6 予防活動の効果・影響を測定・評価するための仕組みの構築
7 国内外のセーフコミュニティネットワークの継続的な参加

認証を取得するまでのプロセス

①セーフコミュニティ取組宣言（平成24年１月27日に実施）
②具体的なセーフコミュニティ活動の実践（平成24年７月から各種会議体の設置および具体的な取組みの企画・検討・実践）
③事前審査（平成25年10月に実施）
④認証取得申請書の提出（平成26年９月を予定）
⑤現地審査（平成26年11月を予定）
⑥認証取得（平成27年２月を予定）
⑦以後、５年ごとに再認証

次号の特集は「日本五大桜 石戸蒲ザクラ」を予定しています。